

公の施設の指定管理者における業務状況評価書

平成26年9月11日

施設名	文学館	所管課	文化生活部文化推進課
-----	-----	-----	------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成21年4月1日～平成26年3月31日
施設所在地	高知市丸ノ内1-1-20		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者の遺品等(以下「文学資料等」という。)を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。 ・文学資料等の調査研究 ・文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の教育普及活動 ・企画展示室、ホール及び茶室の提供 ・上記のほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
	<建物>延べ床面積:2,748㎡ RC造地上2階建 <土地> 4,747㎡ <主要施設> 常設展示室、企画展示室、寺田寅彦記念室、ホール、茶室など <開館時間>午前9時～午後5時 <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 常設展 一般360円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、 精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と 介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料 <div style="margin-left: 40px;"> 施設利用料 企画展示室 23,290円(1日) ホール 12,540円(全室/1日) 茶室 3,590円(全室/1日) </div>		
職員体制	常勤職員: 5人 契約職員: 12人 合計: 17人		

※職員数は平成25年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成24年度(決算)	平成25年度(決算)	平成26年度(予算)
収入	県支出金	105,279	106,140	118,523
	事業収入	8,500	9,129	6,690
	その他	0	1,650	36
	収入計(a)	113,779	116,919	125,249
支出	事業費	113,779	116,919	125,249
	(うち人件費)	(56,558)	(57,580)	(69,491)
	その他	0	0	0
	支出計(b)	113,779	116,919	125,249
収支差額(a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

	平成24年度(実績)	平成25年度(実績)	前年度比
年間利用者数(単位:人)	常設展	1,048 人	1,385 人 + 337人
	企画展	32,449 人	27,127 人 - 5,322人
	計	33,497 人	28,512 人 - 4,985人
	ホール	8,070 人	8,638 人 + 568人
	茶室	3,166 人	3,185 人 + 19人
	合計	44,733 人	40,335 人 - 4,398人
<利用実績> 平成25年度は、企画展6本を開催し、幅広く文学に親しんでいただく取り組みをした。 ・教育普及事業の参加者数16,476人と合わせ、年間総利用者数は56,811人(対前年△5.7%、対前々年+20.9%)となり、平成24年度に次ぐ歴代2位であった。 ・企画展観覧者数は目標20,000人に対し、実績27,127人であった。			

4 県の要求水準に対する評価

要求水準 1

「本県ゆかりの文学作家を顕彰し、土佐文学の魅力を伝える」	
本県は全国的にも数多くの文学者・文学作家を輩出している。 その顕彰とともに時代背景や人物像も含めて土佐文学の魅力を広く紹介する。	
評価項目 (1)開館当初に設定した本県出身またはゆかりの文学作家の顕彰を行うとともに、現在活躍する作家も含めより幅広い土佐文学を紹介する。	
<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示室を定期的に入れ替え、入館者にとって常に変化があることを心がける。 ・ギャラリートークの実施や展示内容・方法の工夫などにより文学への理解を深め、土佐文学の新たなファンを開拓する。 	
状 況 説 明	
<p>1 常設展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県ゆかりの作家を一堂に顕彰している常設展示室では、ローテーション方式でクローズアップ作家を入れ替え、常に新鮮さに配慮した展示に努めた。 ・企画コーナーでは、メモリアルイヤーの作家等を中心に顕彰することとしており、平成25年度は、昨年1月に逝去された安岡章太郎氏の追悼展を行った。 ・寺田寅彦記念室では、全国文学館協議会との共同展である「文学と天災地変」コーナーを設け、寅彦の地震研究に関する資料等を展示した。また、子ども向け解説の充実や実験コーナーの入れ替え等、子ども達の関心を高める取り組みを行った。 ・宮尾登美子の世界では、要望の高かった映画、大河ドラマ、舞台等で取り上げられた作品群を中心に紹介した。 <p>2 企画展示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間企画展5本のうち3本は本県ゆかりの作家に関する内容とし、幅広い土佐文学の紹介を行った。 (「有川浩のセカイとコトバ展」、「紀貫之と『土佐日記』展」、「近代文学のあけぼの展」) <p>3 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎週土曜日と団体の入館に合わせたギャラリートークや、文学カレッジでの顕彰作家に関する講演、企画展とタイアップした記念講演会やワークショップを実施したほか、キャラクター握手会や工作イベントなど企画展ごとに多彩な関連企画で物語の世界に親しみ身近に感じてもらえる取り組みを行った。 ・開館以来季刊で発行している「藤並の森」に連載された「土佐文学さんぽ」のコーナーを一冊の書籍として再編集し、県内の全中学・高校、学校図書館、公民館等に無料で配布した。 	
評 価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展示室の新鮮さを意識した見せ方や、企画展と常設展を関連づけた展示の工夫などにより、観覧者の増加につながっている。 ・年間企画展では、本県ゆかりの作家を取り上げ、土佐文学の魅力を広く伝えている。 ・ギャラリートークや文学カレッジの実施に加えて、「土佐文学さんぽ」を発行し広く配布するなど、土佐の文学作品や作家をより身近に感じていただける取り組みを行った。

評価項目 (2)資料を適正に保管し、活用することによって、作家や関係者との信頼関係を築き、館の運営の基盤とする。	
状 況 説 明	
<ul style="list-style-type: none"> ・寄贈資料は平成25年度末時点で64,135点、平成19年度末と比較すると43.9%増加となった。 ・平成25年度は有川浩氏から感謝状など11点が寄贈されたのをはじめ、吉井勇関係の資料や寺田寅彦書簡など新たに1,205点の資料を収集した。 ・資料整理班職員2名の「文学館職員のための研修講座」への参加等により、資料の保管と活用に関するレベルアップを図った。 ・収蔵品管理システム[I.B.MUSEUM SaaS]の導入により、資料活用の効率化を図った。 	
評 価	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・作家や関係者との信頼関係を築き、資料の寄贈・寄託に結びついている。 ・資料の保管に関わる職員の資質向上や収蔵品管理システムの導入などにより、より円滑で効果的な資料の活用が図られている。

評価項目 (3)土佐文学や作家についての研究を進め、企画展の実施と図録等の作成を通じて研究成果を広く公表する。このことにより県内外に文学館の存在を知らせる。	
<ul style="list-style-type: none"> ・文学研究全体のなかで、高知県立文学館ならではの位置づけを得る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・来館者や土佐文学に関心を寄せる人々からの質問・疑問に専門性をもって対応できる体制とする。 	
状 況 説 明	
<ul style="list-style-type: none"> ・「近代文学のあけぼの展」の図録を作成し、広く公表した。 ・文学館の企画展示等で制作したパネル資料等が評価され、外部のイベントでも再活用された。 (市原麟一郎展→県内の市町村立図書館、大原富枝文学館、有川浩展→県庁 等) ・企画展の開催にあたっては、高知県を挙げて取り組む大きなテーマを意識し、平成25年度は映画「県庁おもてなし課」とのタイアップした「有川浩のセカイとコトバ展」を開催した。県内外から多数来館いただいたことで、これまで文学に興味の薄かった層にも高知の文学を意識していただくきっかけとなった。 ・文学カレッジや企画展とタイアップした記念講演、文学専門講座等を開催し、来館者や土佐文学に関心を寄せる方々からの質問等に専門性をもって対応した。 	
評 価	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ性を意識した企画展の開催や図録の作成等を通して、県内外に広く土佐文学を発信している。 ・文学カレッジの開催など、来館者や土佐文学に関心を寄せる人々からの質問等に専門性をもって対応できる体制ができている。 ・(郷土関係の)重点作家の資料収集に努めるとともに関連資料、周辺資料にも注目していく必要がある。

評価項目

(4)土佐文学に関する情報を常に発信し、高知県の文学館をアピールする。

- ・展覧会、広報誌、ホームページをはじめあらゆる手段で文学館の取り組みを広報する。

状況説明

- ・常設展では、ローテーション方式での展示の入れ替え、メモリアルイヤー展や追悼展の開催により、特定の文学者に焦点をあてた企画を行った。また、企画展とあわせて常設展も観ていただけるよう、企画展の内容に関連性をもたせた常設展示を行った。
- ・最新情報を随時ホームページで発信するほか、館職員のリレーブログや土佐弁でのフェイスブック等も活用し、様々な角度から館の魅力を発信した。
- ・新聞、テレビ、ラジオ等マスコミの活用はもとより、さんSUN高知やタウン誌等あらゆる広報媒体を通じて館のPRを行った。
- ・テーマに応じ、夏休み等タイミングを合わせた教育関係への重点広報を行った。
- ・帯屋町商店街やひろめ市場、県庁など近隣の関係機関とスタンプラリーを実施するなど、連携を図り相乗効果を高めるよう努めた。

評価

理由

B

- ・企画展の内容充実とともに、企画展と関連性をもたせた常設展の開催など、広く文学館をアピールできる取り組みを行っている。
- ・ホームページでの館職員のリレーブログや土佐弁でのフェイスブックによる発信など、多様な広報を行っている。
- ・子ども向け展覧会の夏休み等の機会をとらえた情報発信や、商店街等とのスタンプラリーの実施など、広報に工夫がみられる。
- ・アンケート調査等による分析の結果を広報に活かしている。

要求水準 2

「県民の文学への関心を高める」	
次代を担う子どもたちをはじめとして、多くの県民が文学作品や作家に触れ、文学の愉しさを知り豊かな心を持てるよう、様々な事業を通して取り組む。	
<p>評価項目</p> <p>(1)常設展示や企画展などの展覧会では、様々な年齢層を対象に質の高いものを目指し、常に知的好奇心に触れる企画を実現する。併せて、子どもたちが親しみやすい展示内容や解説、施設面での工夫や、テーマ性をもった展示など入館しやすい環境の整備と維持に努める。</p>	
状 況 説 明	
<ul style="list-style-type: none"> ・顕彰作家を除く展覧会の企画においては、アンケート調査等に基づき、様々な年齢層に対応しうる企画を検討している。 ・平成25年度は親子や子ども達が楽しめる夏休み企画として、「Happiness is SNOOPY スヌーピーの小さな幸せ探し展」を文学館らしい工夫(翻訳者・谷川俊太郎の展示、観覧者参加型カード等)を凝らして開催した。また、教科書にも取り上げられ、年配の方にも思い出深い新美南吉の代表作「ごんぎつね」をはじめ、独自のタッチで人々を魅了した「黒井健 絵本原画の世界」を紹介するなど、多彩な組み合わせの企画により、多くの方に来館いただいた。 ・また、上記展覧会において、写真撮影会、工作イベントなど参加型のものを組み合わせ、大きな賑わいを実現できた。 	
評 価	理 由
A	・顕彰作家以外の展覧会では、子どもから熟年層まで様々な年齢層に応える企画展と多彩な関連イベント等を実施し、歴代2位の観覧者数を記録した。

<p>評価項目</p> <p>(2)教育普及事業は現在多彩なプログラムを行っている。引き続き行うとともに、固定化しつつある参加者の掘りおこしを行い、新規の参加者を大幅に増やす。また、文学サークルや研究会など文学活動に取り組む団体や個人の活動を支援し、文学活動の裾野を広げる。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・朗読コンクール、文学講座、文学カレッジ、紙芝居の会、朗読フェスティバル等 	
状 況 説 明	
<p>1 教育普及事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学専門講座、文学カレッジ、児童生徒文学作品朗読コンクール、朗読の会等を活発に展開したほか、館外においては、市民講座等への講師派遣や、児童クラブへの出張おはなしキャラバンなど、様々な要請に応じた取り組みを行った。 ・毎週土曜日には展示解説を行っている。 <p>2 新規参加者を増やす取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校への出前や教育委員会との連携、企画展の内容構成の工夫などにより、観覧者(特に若い層)が増加している。 <p>3 文学活動に取り組む団体や個人の活動支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から継続して「朗読講習会」を実施し、次の時代の朗読者の養成に取り組んだ。12名の受講生が新たに「朗読の会」に参加した。 ・古文書読解の上級者を会員とした「近世土佐文学研究会」に館所蔵資料を提供するなど支援を行うとともに、調査研究にも役立てた。 ・県内の音楽アーティストや近辺の文教施設とも連携して”木洩れ日コンサート“を開催した。 	
評 価	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・多彩な教育普及プログラムの実施により、観覧者が増加してきている。 ・朗読者養成講習の実施や、文学研究会への館所蔵資料の提供など、文学活動に取り組む団体個人の活動支援を行った。

効率的な運営、サービスの向上、施設・設備の管理

評価項目

(1) 適正な管理運営の確保

社会的責任	・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況
建物や設備の管理	・点検、修繕の実績 ・業務委託の状況
危機管理	・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修

状況説明

- ・法令及び財団諸規程の遵守に努めた。
- ・きめ細かなソフト面での質的向上がよい印象につながっている。
- ・修繕の実績：天井漏水修繕止水外工事、自家発電装置修繕、照明をLEDへ交換
- ・アンケート調査における「環境・快適性」の満足度は「大変良い＋良い」が9割を超えた。
- ・「地震等防災計画」(地震・火災・津波・大雨)を策定した。
- ・消防署や消防施設点検業者とタイアップした消防訓練を実施した。
- ・職員自主企画研修「文化財の虫菌害・保存対策研究会」に参加した。

評価	理由
-----------	-----------

B

上記により、適正な管理運営が遂行されたと認められる。

評価項目

(2) 利用者サービスの維持向上

サービス向上への取り組み	・自己点検、評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取り組み
--------------	---

状況説明

- ・観覧者日報やアンケート調査票を分析し、朝礼、毎週1回の館内会議により情報共有を行った。
- ・事故・クレームへの対応は、ケースに応じた状況判断の中で出来る限り円滑に対処した。
- ・アンケートで接客や環境・快適さが「大変良い」と評価をした観覧者の割合が第2期の5年間の中で最高となった。
- ・文化財虫菌害防除作業主任者の資格試験に職員が合格し、専門性が向上した。
- ・展示会の内容に合わせたミュージアムショップの商品が夏休み企画で2年連続1千数百万円の売上げ実績を残すといったサービスの向上の工夫をしている。
- ・県内で第5番目の「おもてなしトイレ」認定を受けた。

評価	理由
-----------	-----------

A

上記により、利用者サービスの維持向上に努めたと認められる。

評価項目 (3) 利用実績	
利用実績の状況	・利用状況の分析
状 況 説 明	
<ul style="list-style-type: none"> ・年間総利用者数は56,811人(対前年△5.7%、対前々年+20.9%)となり、平成24年度に次ぐ歴代2位であった。 ・企画展観覧者数は目標20,000人に対し、実績27,127人であった。 	
評 価	理 由
A	・年間総利用者数56,811人は、歴代2位の実績であり、また、企画展観覧者数も目標を上回っている。

評価項目 (4) 収支の状況	
経営努力	・収入増加の取り組み ・経費削減の取り組み
状 況 説 明	
<ul style="list-style-type: none"> ・土佐文学の顕彰作家の展覧会を年間半数以上開催する一方で、「Happiness is SNOOPY スヌーピーの小さな幸せ探し展」、「黒井健 絵本原画の世界～物語の出会い～」など、人気度を研究しながら収益率を意識した展覧会を開催した。 ・自主財源10,779千円(対前年26.8%増加)、自主財源比率8.4%(平成24年度8.0%)であった。 ・LEDの導入、エアコン稼働時間の短縮により光熱費の削減を行った。 ・2年連続で「特定費用準備金」を積み立てることができた。 	
評 価	理 由
A	上記により、収入増加や経費削減の取り組みに努力が認められる。

総 合 評 価	
評 価	理 由
A	常設展及び年間5本の企画展により、土佐文学の魅力を伝える一方で、年間総利用者数56,811人という歴代2位の実績を実現した。 アンケート調査においても、接客や環境・快適性が高評価を得ており、優れた管理運営・事業の遂行がされていると認められる。

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する。